Course number		U-LAS70 10	U-LAS70 10001 SJ50										
Course title (and course title in English)	III.ASアミナー、土田の銀型400年の窓でIInstructor's												
Group	Semin	minars in Liberal Arts and Sciences Number of credits 2						2		Number of weekly time blocks			
Class Style		ninar ace-to-face course			esters		2024 • First			Quota (Freshman)		8 (8)	
Target year	1st	year students	Eligible students For all m				r all majors	Days and periods		Mon.5			
Classroom	(North Campus)							ļ	Lar	anguage of struction		anese	
Keyword	天文	学/観測技術											

# [Overview and purpose of the course]

ガリレオが望遠鏡を天体に向けその思いもよらぬ素顔を目にしてから、400年が経った。そして、 観測技術の革新によって、宇宙に対する見方はさらに大きく変わってきた。宇宙の姿を解き明かし たいという人々の熱意を振り返ってみたい。

# [Course objectives]

- ・大学でのゼミというもののやり方を理解し、課題(レポートや発表)に対して自主的、継続的に 取り組む能力を養う。
- ・歴史の中での観測天文学の発展を理解する。

### [Course schedule and contents)]

授業回数はフィードバックを含め全15回とする。

予定している教科書は、ガリレオ、ニュートン、ハーシェル、ハギンズ、ヘール、エディントン、シャプレー、ハッブルという「宇宙物理学者」8人の生涯をたどった、300ページあまりの、やさしい英語のテキストで、数式は一切使われていない(ゼミ期間中の貸し出し可能)。Nature誌の評には「Glass has written an absorbing book, which I strongly recommend.」とある。著者のGlass博士は赤外線天文学の大家で、これら8人のことを、物理科学を天文学に応用して世界観を変えた人物と紹介している。

彼らの中から3人程度を選び、その発明や発見をとおして宇宙物理学の発展を概観したい。天体が 地上と同様の物理法則にしたがうのだとわかり始めた17世紀から、量子力学や相対論という物理学 革命とともに天文学でも発見のラッシュをむかえる20世紀までの時代に生きた人々の生涯である。 さらに可能であれば、21世紀最先端の観測的研究について探りたい。

夏季休暇中に、望遠鏡はどんなところ(天文台)に設置されているのか、どう動かすのか、観測装 置はどうなっているのかといったことを見学に行く予定であり、希望者は参加可能である(成績評 価には含めない)。

### [Course requirements]

None

## [Evaluation methods and policy]

毎週の発表(60点)、討論への積極的な参加(40点)により評価する。

発表については到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い

Continue to ILASセミナー : 宇宙の観測400年の歴史(2)